

最後まで闘い抜く

NRU 国労せんだい

NO. 2501
2007年9月13日
発行責任者 太田 博二
編集責任者 武田 昌仙

喜多方連帯する会が定期総会

八月二十四日、喜多方労働福祉会館において、第十九回喜多方連帯する会総会が開催された。総会では活動・財政報告、活動方針、役員体制について全会一致で承認され、引き続き解決まで国鉄闘争を支え闘うことを決定した。



集會に結集した共闘の皆さん

総会には会員等二十三名が参加し、会を代表して大野会長からは、「二十年を越させないために会員の拡大や交流会、カンパ活動等地區としてできるだけだけの活動を展開してきた」、「結果二十一年目を迎えたわけだが、国労全国大会では、『四者・四団体』の団結をもとに政治解決の実現に全力を挙げようとする方針が確認されている。喜多方連帯する会として十八年以上にわたって国鉄闘争を支え、共に闘ってきたことに『自負と誇り』をもつて、国労と共に最後まで闘い抜きたい」との挨拶がされた。

続いて大沼地本書記長から第七十五回国労全国大会の報告と、JR不採用事件の早期解決に向けた闘いについて、全国大会で確認した闘いの到達点、決定した方針、闘いの展望について

問題提起がされた。また、闘争団全国連絡会議小野副議長からは、解決局面にあるとの情勢認識の下、「具体的要求について政治からの回答があった場合でも躊躇しないよう組織としての腹固めを準備してい

る」など、緊迫した報告がされ、JR不採用事件の現状と課題について、全体で情勢の共有化が図られた。仙台闘争団から佐藤事務局長、郡山連帯する会からは高橋事務局長が参加し、それぞれ決意と連帯の挨拶

がされた。また、総会終了後は、参加者全員で懇親を深めあった。



東日本本部大会で 優良機関紙表彰受賞

「ろばた」と「国労せんだい」

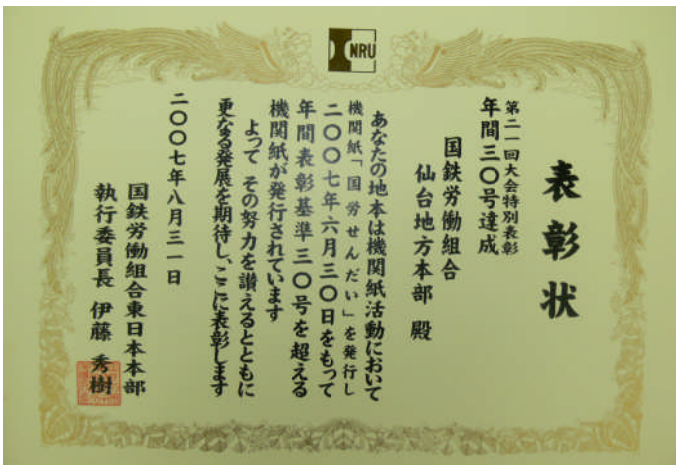
八月三十一日〜九月一日開催された東日本本部第二十一回定期大会において、東北工事事務所分会の機関紙「ろばた」が年間発行五十号以上の選考基準を満たす五十三号の発行により、六年連続となる優良機関紙表彰を受賞。また、機関の学習・交流の継続二十年以上により「拡大班会議」も表彰され、ダブルの受賞となった。

また、今年には機関紙表彰設立10周年を記念し、非専従の中で奮闘している教宣担当者の苦勞に感謝する意味を込め30号を越えた地方に特別表彰が設けられ、水戸、高崎、新潟、そして仙台地本（32号発行、写真）も表彰を受けた。

「ろばた」は職場の問題にとどまらず、春闘総行動の取り組みとして定着している川柳大会の掲載など、幅広い話題を取り上げ分会全体で作りに上げてきたもの。

「拡大班会議」も分割民営化以降、十七年よりこれまで二十年間、毎月休むことなく開催され、点在する組合員の学習と交流に欠かせないものとなっている。

東北工事事務所分会はダブル受賞



郡工でアスベスト問題学習会

会社施設内で開催

八月二十八日、郡山工場支部のアスベスト対策委員会が「アスベスト問題学習会」を工場内の第二会議室において開催した。支部単位の同学習会は三月に仙総支部で開催されて以降二度目。

会は大橋副委員長の司会で開会し、支部を代表して挨拶に立った橋本執行委員長は、自身の経験からアスベストの怖さと、アスベスト作業での不当処分に対する会社への怒り、学習会の重要性を示した。

続いて地本アスベスト対策委員会事務局長の佐藤執行委員が全国と地本内の経過と状況、今後の課題と取り組みについて提起。その内容は、アスベスト問題が大きくなったのは毎日新聞の夕刊(05・6・29)に「クボタ社員及び工場に入りしていた業者において中皮腫・肺がんなどの石綿関連の発症が急増し、過去十年で五十一人が死亡」の記事がきっかけ。地本は

これまで十二回の対策委員会を開催し、その中で学習会を二回開催している。

職場・施設においてアスベストらしき物が出現した場合、会社に即時連絡をする必要があり、基本はノン・アスベスト化である。地本は特殊健康診断の結果を集約しており協力を要請すると共に、個々人で息切れ・咳・痰などの自覚症状が表れた場合は早期に受診すること等。

参加者からは、ロックウールやガラスウールは現在規制の対象になっていないので、職場のダクトにアスベストが使用されている疑いがある。TKKでのアスベスト取扱い作業では教育がなされているのか。貨車アンダーシューにアスベスト使用の疑いがある。社宅に使用されているのか等、不安が出された。

これに対し佐藤事務局長は、ロックウール・ガラスウールのアスベスト含有量に対する国の規制を調査す

る。北山形の社宅で使用されていたが改修工事は終了していると答弁。最後に支部アスベスト対策委員会職場でアスベストらし

稚内闘争団激励交流オルグ団を派遣

宮城県支部が主催 宮城・仙総・共闘で構成

宮城県支部は例年恒例となつている稚内闘争団への激励交流オルグ団を9月1日から3日の行程で派遣した。

オルグ団は曾我宮城県支部執行副委員長を団長とし、宮城県支部から佐藤春男氏と高橋浩仁氏、仙総支部より江刺家逸郎氏と渡辺一則氏、共闘(国労闘争団を支える会)から横山勝氏の6名で構成。

一行は仙台空港から千歳へと飛び、その後稚内空港へ到着。稚内闘争団の出迎えを受け、早速稚内闘争団の事務所へ団員・家族と交流を行った。

交流会はオルグ団の自己紹介と近況報告から始まり、不採用問題の解決に向けた闘いの行動や支援の取り組みなど

き物が出た場合は作業責任者に即連絡をすること。特殊健康診断の結果とこれまでアスベストを扱ってきた本人の履歴も合わせて支部・地本へ提出することを要請。更に今後も学習会を開催していくことを全体で確認し、会は終了した。

第六十二回 定期地方大会開催

とき
九月二十九日(土) 十三時
〜三十日(日) 十二時
ところ
仙台市・茂庭荘

が報告された。また闘争団組合員・家族からはこの間の闘いの経過や現状報告がなされた。特に二十年を越える長期にわたる闘いの経過には様々な出

来事があり、不採用、解雇時の屈辱と悔しさ、家族、自身との葛藤など、とても一言では言い表せるものではなく、涙あり笑いありの交流となった。

一行は翌日の稚内団結祭り「にたまごん」にやくの販売をして参加をするため、あらかじめ郵送していたたまごんにやくの仕込を深夜から開始。個人的な味付けが功を奏したのか、翌日の団結祭りではあつという間に完売した。

祭り後に再度交流会を開始、翌日はイカの一夜干し作業所見学と体験をし、帰路について、「今も闘いを継続している意志と力、闘いの原点を再確認してきた。(曾我団長)の言葉に表れているように、いつもの事ではあるが、激励のつもりが最後は激励され元気をもらってきたよつである。」



お知らせ
国労会館建設資金返済業務の取り扱い変更について
国労会館建設資金返済業務は1999年度末償還期限以降、(財)国労会館仙台事業部で取り扱って来たところですが、このたび返済業務が一定の整理を見たこと等から、(財)国労会館仙台事業部で取り扱ってきた業務の残りについて、国労仙台地方本部で引き受けることになりました。

つきましては、今後の国労会館建設資金返済請求については下記に請求をしてください。

住所 〒984-0015 仙台市若林区新寺一丁目4-31
名称 国鉄労働組合 仙台地方本部
担当係 岡崎
連絡先 TEL 022-937460 FAX 022-937465
請求方法 所定の請求書に必要事項を記載の上「国労会館建設資金受領之證」とあわせて提出してください。

